



平成26年10月31日

各 位

会社名 Oak キャピタル株式会社
代表者名 代表取締役会長兼CEO 竹井 博康
(コード番号3113 東証第二部)
問合せ先 広報・IR室長 小玉 誠一
(TEL. 03-5412-7700)

株式会社SOL Holdings (東証JQS 6636) に向けた事業支援投資に関するお知らせ

平成26年10月7日に公表いたしました株式会社SOL Holdings (東証JQS 6636) の事業支援を目的としたエクイティファイナンスの引受けに関して、本日開催の同社臨時株主総会で承認可決されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. SOL社が実施するエクイティファイナンス概要

当社は、同社の第三者割当による資金調達引受けを実施いたします。(払込日11月4日)

□SOL社への投資総額20億円の内訳

転換社債型新株予約権付社債の引き受け：3億円

新株予約権の引き受け：17億円 (権利行使による払込予定総額)

合 計：20億円

□投資後の出資比率

投資総額の当社出資比率は31.19%であります。

2. クリーンエネルギー事業およびバイオ事業への展開に向けた事業支援投資

(1) バイオ燃料事業 (クリーンエネルギー燃料) の取り組みに関して

SOL社は、昨年からの推進する事業戦略として、バイオ燃料事業に本格的に取り組む体制が整い、この度の資金調達で大型投資を実行し、来期の業績に貢献出来る予定としています。

クリーンエネルギーは東南アジアを中心とした新興国の急激な経済発展やCO2排出による環境・地球温暖化問題などから、世界的に代替燃料に対する期待や関心が高まっている中、当社が進めるバイオ燃料事業は大きな可能性を秘めており、各方面から注目を集めております。同社は原料となる植物「スーパーソルガム」の種子の生産からバイオ燃料の生産までの事業を一貫して行います。

(2) バイオ事業 (食品原料・飼料) の展開に関して

バイオ燃料となる「スーパーソルガム」は生産過程で砂糖、ブドウ糖、家畜用飼料などが出来ることから、多目的な利用が期待されております。同社はその製品の生産販売にも着手致します。(詳細は次ページ)

3. SOL社のバイオ燃料事業について

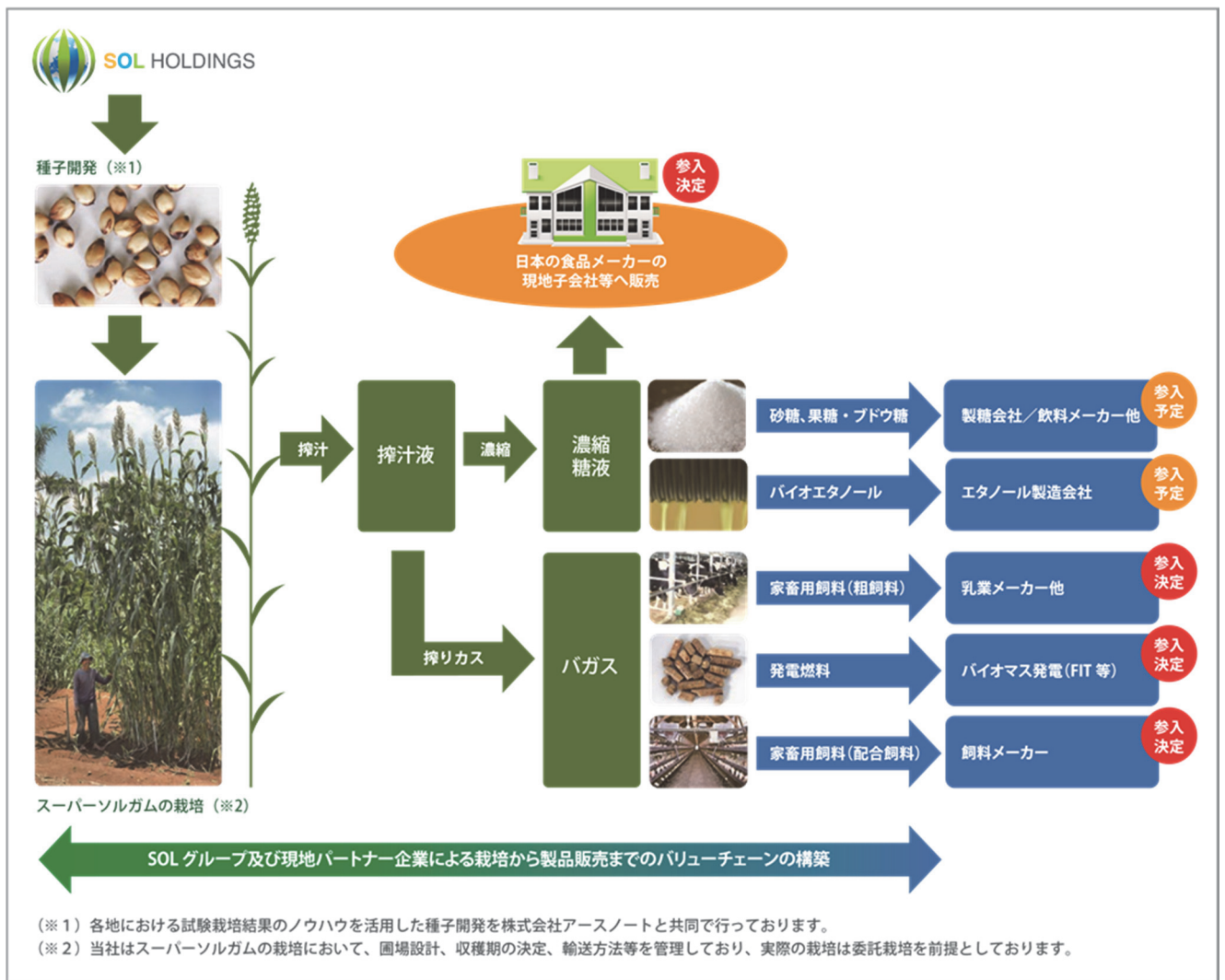
□「スーパーソルガム」によるバイオ燃料事業への期待

「スーパーソルガム」とはアフリカエチオピア原産のイネ科植物であるソルガムを、日本の技術で品種改良されたものを「スーパーソルガム」と呼んでおり、驚異のバイオ燃料の原料として世界から注目されています。

本年は、昨年来のインドネシアやオーストラリア、メキシコなど海外での事業展開に加え、ベトナムやカンボジアなどの東南アジア地域に拡大するとともに、試験栽培、実験栽培のフェーズから商用栽培のフェーズへステップアップし、昨年からの蒔き続けた種子が芽を出すのが本年となります。

□SOL社は、既に昨年からの「スーパーソルガム」の種子栽培の体制を確立し、海外のローカルパートナーと共同して生産から加工まで行い体制で推進しております。この度のファイナンスで種子の栽培から最終製品までの、一連のバリューチェーンに関わる体制を確立する事が出来ます。これは、日本企業として他社に先駆けたバイオ事業の展開となります。 ※SOL社が「スーパーソルガム」の独占販売権を保有しております。

※スーパーソルガムのビジネスモデル



□ 「スーパーソルガム」 6つの活用事業



バイオエタノール
製造会社



バイオマスペレット
電力会社



砂糖
製糖会社



果糖ブドウ糖液糖
飲料メーカー



乳酸発酵飼料
乳業メーカー



建築資材
ハウスメーカー

□ 「スーパーソルガム」の主な特長

- ・成長が早い
- ・収穫量が多い
- ・活用事業が多い



□各国の事業進捗及び事業規模

〈インドネシア〉 中期売上目標12億円



- ・バイオマスペレット製造設備建設着手
- ・製糖会社向け種子販売開始
- ・日本食品メーカーのインドネシア子会社向けに糖液販売開始

〈タイ〉 中期売上目標10億円



- ・タイ企業とエタノール製造で協業開始
- ・製糖会社向け糖液販売開始
- ・乳業メーカー向け種子販売開始

〈ベトナム・メキシコ・マレーシア・オーストラリア〉 中期売上目標8億円

- ・スーパーソルガム生産者へ種子販売開始



※各国背景

〈インドネシア〉 国内ガソリン利用代金の4割を政府が拠出しており、同国政府は2025年までに化石燃料以外のエネルギー割合を17%に高める目標を設定しており、代替燃料としてバイオマスやバイオ燃料を有望視している。

〈タイ〉 同国は化石燃料の代替燃料としてのエタノール利用が盛んな国であり、同国政府は「15ヶ年再生可能エネルギー計画」に基づき、2020年までにバイオエタノール生産量を現状の3倍にする計画を推進している。

■世界のエネルギー関連データ（ご参考）

- ・世界地域別・燃料別エネルギー需要見通し
平成22年→平成47年

		増加量 (%)			増加量 (%)
OECD	北米	3	石炭		17
	欧州	1	石油		12
	アジア太平洋	1	ガス		31
OECD以外	東欧・ユーラシア	6	原子力		9
	アジア	66	水力		4
	中東	9	バイオマス他		27
	アフリカ	7			
	中南米	7			

出所：国際エネルギー機関（IEA）「世界エネルギー展望」

4. 本投資を決定した理由

Oakキャピタルは、本投資によってSOL社の推進する同事業が未来に向けたクリーンエネルギー産業で世界の人々のより良い生活環境作りに貢献出来ることを願っております。また、同事業の事業戦略が同社のイノベーションとなり、企業価値の向上に繋がることを期待しております。

5. Oakキャピタルの今期投資事業の状況

政府による経済・金融政策に対する期待感から国内経済は回復基調となり、企業業績は前期を超える様相で推移しております。また、国内の株式相場も上昇の勢いを増してまいりました。当社は、上場企業の資金調達支援や経営戦略の支援など、企業価値向上の後押しを行ってまいりました。

平成26年は前年にまして企業の積極的な設備投資やM&Aにより、今まで以上に当社の投資銀行業務であるエクイティファイナンスの引受業務が重要度を増しております。引き続き、企業の将来に向けた成長資金の支援を展開してまいります。